

# J-POWERグループのビジネスモデル

## 日本と世界の持続可能な発展に貢献

当社グループのビジネスモデルは、国内外で発電所を建設、運転して電気を販売することで収益を得るモデルです。日本国内においては送変電設備を有し、旧一般電気事業者から電気の託送を受け送電することでも収益を得ています\*。さらに、発電所を保守運営するグループ会社を有し、J-POWERグループとして開発、設計、建設、運用を一貫して行うノウハウを有しています。

火力発電事業においては、燃料の上流権益への出資を行うことで、電力の安定供給を目的としたサプライチェーンの構築に関与しています。また、電力販売のリスクコントロールを目的としたリスク管理委員会の設置、発電所の運用パターンの変化に応じたメンテナンスの実施など、外部環境の変化に対して臨機応変な対応が可能な体制を構築しています。

また、戦後の電力不足を補うために大規模開発を進めた水力発電事業に加え、2000年代初頭より先進的に開発を進めてきた風力発電事業など、豊富な開発と長年の運営実績により再生可能エネルギー（再エネ）のトップランナーとしての地位を確立しています。

上記の発電事業は、需給に応じた電気の販売(kWh)、発電能力(kW)、短時間で需給を調整する能力(ΔkW)、CO<sub>2</sub>フリーの電力(非化石価値)の提供を主要な商品としています。

送変電事業は、地域間連系設備・HVDC(高圧直流送電)、周波数変換所など、ユニークな設備により日本全国での電力の広域系統運用・再生可能エネルギーの一層の拡大を可能にする役割を果たしています。

海外発電事業は、国内で蓄積したノウハウと、コンサルティング事業で築き上げたネットワークを活かし、信頼できる現地パートナーと共に世界各地のニーズに合わせた電源の開発・エネルギー供給に取り組んでいます。

\*送変電事業は電源開発送変電ネットワーク(株)の取り組みです

